

## 2013 年度 海外研修報告

### College of Veterinary Medicine, Auburn University, Auburn, Alabama

農学部獣医学課程

5年 高山杏奈

#### 1. 留学決定までの流れ

4月上旬に板垣先生に参加希望を出し、その際にコースの選択と大体の希望日程を伝えました。コース選択は向こうの大学に行ってから変更可能ですので、とりあえず自分がやりたいものを選ぶのがいいと思います。実際のところ、申し込みの段階で私は小動物腫瘍学のコースを選択していましたが、留学1週間後に小動物軟部組織外科学に変更しています。これについては後ほど記載します。

参加希望者が4人以上になると抽選になる場合があるので注意して下さい。今年は私の他、解剖学研究室の伊藤さん、産業動物臨床学研究室の緒勝さんが参加しました。参加者が決定した後アプリケーションフォームに必要事項を書き、今年度からこの企画を担当していただく木崎先生に提出しました。この後は木崎先生とオーバン大学の担当の方（Givens先生）やりとりが主体で、必要事項はこちらにも連絡していただくような形で準備をしていきました。



左端が筆者、中央が Mrs. Givens、  
右端が伊藤さん

#### 2. パスポート取得、航空券購入、ESTA取得、海外保険の加入

私はパスポートをまだ持っていなかったもので、取得するところから始めました。アイーナのパスポートセンターでは岩手県外に住民票がある方でも、必要な書類を提出すればパスポートを作成できます。これからパスポートを取得する必要がある方は是非利用してみてください。作成するのに2週間程度、約1万5千円程度かかりました。航空券購入、ESTA取得、海外保険の加入はほぼ同時期に行いました。特に航空券は留学時期を考えると取りにくいことが予想されたので、私のパスポート取得後すぐに予約しました。以前先輩からアトランタ直行便は値段が高いので経由便をとるのがいいと聞いていたのですが、私達が予約した時は直行便と経由便どちらもほぼ同じ値段でしたので、直行便を選択しました。予約時期は6月中旬程度だったと思います。海外保険は航空券予約時に旅行会社におすすめされたものに加入しました。

#### 3. 留学スケジュール

Givens先生から「大学が始まる3日前までに到着して欲しい」と連絡を受けましたので、以下のようスケジュールになりました。

8/29(木)：高速バスで盛岡を出発

8/30(金)：朝に新宿に到着、13:00に伊藤さん、緒勝さんと成田空港で待ち合わせ

日本時間で15:55分発デルタ航空アトランタ行の便に搭乗

8/31(土)：現地時間15:25にアトランタ空港に到着

シャトルバスで待ち合わせ場所である Auburn University Hotel に移動

Givens先生と落ち合い、ホストファミリー宅まで移動

9/1 (日) - 9/13 (金): ホームステイ & オーバン大学臨床実習  
9/14 (土): 現地時間 13:15 アトランタ発成田行の便に搭乗  
9/15 (日): 日本時間 16:20 成田到着。伊藤さん実家に一泊  
9/16 (月): 高速バスで盛岡に帰省

オーバン大学はアラバマ州にありますが、最寄りの空港は隣のアトランタ州の空港です。アトランタ空港からオーバンまでは車で2時間程度かかります。電車、バスはないのでオーバンまでの移動については、オーバン大学の担当の方やホストファミリーとあらかじめ連絡しておく必要があります。私達の場合は Givens 先生とメールのやり取りの中で、シャトルバスを予約し、オーバン大学ホテルで待ち合わせすると決めました。シャトルバスは緒勝さんが予約してくれたので、予約方法については緒勝さんに聞いて頂ければと思います。また、アラバマ州とアトランタ州には1時間の時差がありますので、待ち合わせや飛行機の搭乗時間には十分注意して下さい。

#### 4. 費用

私が今回の留学でかかった費用の概算を以下に示します。参考にして下さい。

航空券 ¥131,590

保険料 ¥20,000

シャトルバスチャーター代片道分 ¥3,700

日本から持って行ったお土産代 ¥20,000

お小遣い ¥30,000 をドルに両替、¥20,000 を予備として日本円で所持したので計¥50,000

観光、日本へのお土産等 ¥60,000

現金はそこまで大量に持ち歩く必要はないと思いますが、私達の場合はホストファミリーが動物園や水族館に連れて行ってくれたので、結構なお金を使いました。私自身現金を余り持ち歩きたくなかったこともあり、できるだけクレジットカードで支払いを済ませていました。アメリカでも銀行で両替をすることができますが、日本同様両替できる曜日や時間帯が決まっています。日本円、ドル共に少し余分に持ち歩くのがいいと思います。

#### 5. 語学力

今回の留学で私が最も大事だと感じたのが語学力です。留学を決めた段階では大学受験程度でしか英語の読み書きができず、スピーキングに関しては全くだったので寒冷バイオセンターのラーマン先生に週1回で英語のレッスンをお願いしました。それ以外では論文を読んで専門用語を勉強したり、海外旅行で使える英文集を読んだりしていたのですが、実際に留学をしてみると自分の語学力の無さに愕然しました。ホストファミリーは易しい英語でゆっくりと話してくれるのであまり困るようなことはありませんでした。しかし、オーバン大学の臨床実習は生徒、教授ともにとっても流暢な英語で、かつ専門用語を交えて話をするので、最初のうちは辛いものがありました。私のように歯がゆい思いをしたくなければ、英会話教室に通うことを強くおすすめします。盛岡市内に chatwoods という無料の英会話サークルがありますので、興味のある方は是非参加してみてください。

また、同行者の中に一人以上英語に堪能な方がいれば安全です。私達は緒勝さんが長期留学体験者で語学力に自信がある方だったので、彼女に随分助けられました。これは今回の留学でアメリカ入国の際に少しヒヤリとしたエピソードです。空港で入国手続きをしたあと入国目的を聞かれるのですが、sightseeing と答えれば概は大丈夫です。しかし、私達は滞在先をオーバン大学と指定していたため、係の人に怪しまれて何故大学に滞在するのかと質問されました。このとき緒勝さんが機転を利かせてうまく英語で説明してくれたおかげで無事に入国でき、管理局に拘束されずに済みました。入国手続きでトラブルがあり管理局に軟禁されて飛行機の乗り継ぎが時間通りに出来なかった事例も過去にはありますので、留学を考えている皆さんは語学力に十分に重きを置いてほしいと思います。英語が少しわかるだけで、留学の楽しさはかなり変わってきます。

## 6. お土産

ホームステイ中は宿泊費や食費などは自分で外に行かない限り、ほとんど支払う機会がありません。普段の食事、お風呂、タオル、洗濯機などは全てホストファミリー先で用意してくれます。感謝の気持ちをこめてお土産は荷物の負担にならない程度に、かつできるだけたくさん持って行ってあげてください。

まず、お土産を購入する前にホストファミリーの家族構成を聞いておきましょう。今回私達が持って行ったものはお菓子の詰め合わせ、箸、箸置き、湯のみ、ご当地 T シャツ、ご当地キティ、絵葉書、風鈴、ポケモンの文房具とポケットティッシュです。日本製の洋菓子は海外でも美味しいと評判らしいので、フィナンシェやマフィンなどアメリカでも馴染みのあるお菓子を持って行きました。日本独特の食器も大変喜ばれます。魚の名前が漢字でたくさん書かれている湯のみや、中尊寺金色堂の T シャツなどはホストファミリーとの会話のきっかけにもなります。キティは世界的に有名なこともあり、ホストマザーがとても気に入ってくれていました。また、ホストファミリーに小学生くらいの年齢の男の子がいたので、ポケットモンスター の文房具とポケットティッシュをプレゼントしました。小さい子には日本語の絵本や勉強教材、折り紙などを買って行くと喜ばれるようです。

## 7. ホストファミリー

留学日程の決定後、Givens 先生が学内に向けてホストファミリーの募集をかけているようです。今回、私と伊藤さんは Givens 先生一家が、緒勝さんはレジデント（日本でいう院生のような立場の方）の Kuo さん一家がホストファミリーになってくれました。Givens 先生は奥さんの Sherri さんと子供の男の子 3 人と暮らしており、私達を暖かく迎えてくれました。また、Kuo さん夫妻も私達を色々なところに連れて行ってきて、両家族にはたくさんの思い出を頂きました。ホストファミリーが決定したと先生から連絡を受けたら、ホストファミリーの連絡先を聞いて、相手の家族構成や自分の自己紹介、質問事項などをやり取りで確認して下さい。それだけで語学力の練習にもなります。私は Sherri さんから「アメリカの食べ物で食べたいものがあったら作るから教えてね」と連絡を受け、ミートローフやオートミールなどのリクエストをしました。ホストファミリーとの生活は毎日とても楽しく、かけがえの無い経験です。恥ずかしがらず、自分から積極的に会話に参加するようにしましょう。

## 8. 滞在中の服装

日本の大学病院とは違い、病院内ではある程度フォーマルな格好をしなければいけません。小動物臨床では、男子はネクタイにスラックスでその上に白衣を羽織っていました。女子はそれに比べて少しラフで、ブラウスにスラックス、無地のカットソーにチノパンなどを身につけていました。軟部外科、脳神経外科などは朝から手術が入っている日もあるので、その際はスクラブで登校しました。学校が終わるとすぐホストファミリー宅に帰っていたので、平日はほとんど私服を着ることがありませんでした。荷物にもなるので、私服は休日の回数分着回せる程度の量があれば十分だと思います。

## 9. 学校生活（実習以外）

朝晩の送り迎えはホストファミリーにお願いすることになるので、学校が始まる前に確認をとっておく必要があります。ローテーションごとに集合時間、解散時間は異なりますが、小動物臨床はだいたい 8:00～18:00 の間病院に拘束されます。大学内にカフェテリアなどはなく、院内にあるのは飲み物とスナックの自動販売機程度です。小動物病院の隣には休憩所やオフィスのある建物があり、その自動販売機にはインスタントのスパゲッティやカップ麺などが置いていますが、1 ドル紙幣とコイン以外は受け付けてくれません。近場に飲食店もないので、お昼は持参するのが無難です。私達はホストマザーと一緒に毎朝サンドイッチやサラダなどを作って持って行って行っていました。小動物臨床に関して、お昼ご飯の時間は決まっていません。生徒はお昼時になったら各自暇を見つけて適当にご飯を済ませています。この辺りは自己責任です。また、初日に学内サイトや Wi-Fi に接続できる ID をもらうことができますので、タブレットや PC の持ち込みも可能です。

## 10. 学校生活（臨床実習）

ローテーションの初日にオリエンテーションがあり、そこで自己紹介とおおまかな説明を受けます。一つのローテーションに **Professor** が 1-2 人、**Resident**（日本でいう院生のような立場の人）が 2-5 人、生徒が 4-8 人程度の人があります。小動物臨床の一日のおおまかな流れとしては、午前中に診療をし、午後に治療、手術を行います。日本の獣医学教育と大きく違う点は、患者の受け持ち、診療などは生徒が一人で行っているところです。また、生徒ができる治療行為も日本より遥かに多いです。例えば、小動物腫瘍科では診察後、生徒が自分で今後の治療方針を計画し、それを教授やレジデントに提示してディスカッションをします。そこで了承が得られたらレジデントと一緒にオーナーに説明しに行き、その後は実際にその治療を行っていきます。生徒のレベルも日本の獣医学生徒は比べ物にならないくらい高く、留置設置や採血だけでなく、**FNA** やバイオプシーなどの技術も持ち合わせています。

小動物臨床の分業化が進んでいる点も日本とは異なっています。私達の大学には小動物外科と内科の二つしかありませんが、オーバン大学の小動物臨床には、私が見た限り整形外科、軟部外科、脳神経外科、小動物腫瘍科、放射線科（X線撮影）、放射線治療科、超音波検査科、集中治療室 ICU、と細かく別れています。そのため、当初自分が抱いていたイメージと違う場合が多々あります。冒頭にも述べたように私は腫瘍の手術が見たくて小動物腫瘍学を選択したのですが、腫瘍科にきた患者で手術に必要な動物はすぐに軟部外科に回され、腫瘍科の担当する治療としては抗がん剤の投与や **FNA** など内科的なものが多かったので、1週間後に軟部組織外科学に変更しました。2週間という短い期間ですので、我慢せずに自分の見学したいものはどんどん見に行きましょう。コースをわざわざ変更しなくても、教授に「今時間が空いているのでオペを見に行きたい」など自分のやりたいことを申し出れば大抵は OK してくれます。ちなみに、軟部組織外科では実際に避妊手術の助手をしたり、ネコに留置を設置したり、日本では見られない手術を見ることができたりと、とても有意義な体験をさせていただきました。

## 11. その他

- オーバンは田舎です。車がないと買い物にも行けません。
- 日本との時差は 13 時間くらいです。
- 現地のスーパーでは日本食やカップ麺も売っています。
- 粉末緑茶、パックの味噌汁は是非持って行って下さい。助けられます。
- 皆さん大体 9 月に実習に行くと思いますが、その時期のオーバンはとても暑いですが、ただ、小動物病院内は冷房がきき過ぎていて寒いぐらいなので長袖も忘れないように。

## 12. 最後に

2週間という短い期間ではありますが、非常にいい経験になることは間違いありません。少しでも興味のある方は是非参加してみてください。今回の報告書では詳しい臨床実習の内容は省いていますので、質問事項や詳細について知りたい方はいつでもご連絡下さい。